

安曇野市まちづくり推進会議 第3回ワーキンググループ
(区の意義や重要性の理解促進部会)

- 1 会議名.....安曇野市まちづくり推進会議第3回ワーキンググループ.....
- 2 日 時.....令和元年12月23日(月) 午後3時00分から午後5時00分まで.....
- 3 会 場.....安曇野市役所 本庁舎 3階 共用会議室307.....
- 4 出席者.....田村会長、熊井副会長、大澤副会長、中樞委員、瀧澤委員、増田委員、大神委員、
青柳委員、藤松委員、玉井委員、小口委員、妹尾委員、堀井委員、望月委員、宮崎委員、
野中委員、土屋委員(地域おこし協力隊).....
- 5 担当課出席者.....宮澤市民生活部長、地域づくり課 山田課長、青柳係長、矢下主査、藤原主事.....
- 6 公開・非公開の別.....公開.....
- 7 傍聴人 0人.....記者 1人.....
- 8 会議概要作成年月日.....令和2年1月7日.....

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ【田村会長】
- (3) ワーキンググループ【進行：宮澤部長】
- (4) その他
- (5) 閉会

2 会議事項概要

ワーキンググループ

議題：区の意義をどのようにして伝えていくか。

事務局 資料1説明

区に関することを今までの意見からまとめた。ご意見をいただきたい。

委員 民生児童委員の部分に声がけについて入れていただいているが、声がけについては、加入者未加入者関係なく声がけをしていることを加えていただきたい。また、普段の活動として「区の行事に参加するよう訪問した際に促していく」「福祉員とは密にコンタクトをとり、情報をいただく」「区民の困りごとに対しては福祉員と話し合いながら対応していく」の3点があるので、付け加えていただければ有難い。

委員 区に参加したくなるような魅力的な行事がないと言われてしまう。自分の区は区費が月1,000円であり、高いという意見もある。役員がまわってこない準会員のような制度はできないのか

事務局 昨年の専門部会の中で準会員について話があがったが、準会員のような制度を設けた区は、結果として、準会員に移ってしまう人が多くなるという課題があった。

委員 私の区もすべての集金額を合計すると似たような金額になると思う。区の減免は規約にあるが、適用したことはない。ただし、区への加入金が高かったため、是正したことはある。また、1人暮らしであっても、10人の世帯であっても支払う額は同じである。その公平性についてはこれから検討すべきこととなっている。

委員 ひとつの敷地内に何世帯が住んでいても同じ区費になることを何とかしたいこと、区に未加入の方について区に一切関わっていないが、一緒に生活しているのであれば、環境費負担やごみ当番だけでもやってもらいたいことを区に提案したところである。

委員 大足区ではゴミ当番は未加入の方にもしてもらっている。区費については、一棟単位になるが、高齢者で基礎年金しかない方は区に申し出があれば、審査して免除している。今現在3人の方については免除している。役員会の中で審査して、個人の名前を出さず区民に承認を得て行っている。区費は高いが人数が少ない区は最低限いただかないと運営していくことができない。

事務局 まちづくり推進会議で地区のお祭りとか楽しいことを行っていくことで区の魅力がでてくるという話が合ったが、それについていかがか。

委員 次の世代につなげること、継続していくことが大事。長老からアドバイスを受けながら行う。聞かれる方もうれしい。

事務局 転入・転居される方に説明する際に区のどのような情報が必要か。

委員 紹介する方としては83区の良いところが知りたい。紹介カードもいいが、紹介カードの右欄の区のアピール部分をより具体的にしたものがあるとよい。それがホームページに掲載されていて、「こういった特徴があり、こういった活動をしています」と具体的に紹介できるとよい。

委員 83区のうち64区に作成してもらっている。区で独自で作成しているものを紹介カードとして提供してくれている区などの紹介カードは詳しく掲載されているが、基本的にPR写真と世帯数等の基本的な情報を載せているものになる。市の窓口で転入者に区の説明をする際の反応は、言葉だけで説明するよりもイメージが湧きやすいように感じる。

委員 紹介カードの区の説明内容が区の熱意によって違うことは、転入者にとっては不公平になりかねない。市で充実させることをお願いしたい。83区の情報まで説明するのは難しいので、山麓線地域のメリット・デメリット、里のメリット・デメリットといっ

たようなおおまかな説明をしている。

委員 一般の方もホームページで区の概要を簡単にみられるような仕組みになっていれば、転入者が事前に確認できるのでよいと思う。

事務局 子どもを巻き込んだ事業による魅力ある地域づくりに対して、加えて何かあるか。

委員 初めてしめ縄のリースづくりを行った。シニアと子供連れのお母さんが来て、一生懸命に教える姿、学ぶ姿がほのぼのとした光景で、素晴らしい異世代交流となった。毎月のイベントをシニアもお母さんも楽しみにしており、このような交流をどう広げていけばいいか考えていかななくてはならない。

委員 先月、中萱区の体育部から、たまたま私たちのNPOの活動を知ったとのことで依頼があった。前年踏襲でやっていたイベントが、バスで遠出するため費用がかかり、人が集まらず、役員の負担が大きく、困っているとのことだった。地区を歩いて、ぬかくどで炊いたおにぎりをふるまった。20数名参加してもらったが大変喜んでもらって、費用もかからず役員の負担も少なくて済んだ。同じように困っている区の方はたくさんいると思うが、どこにどんな市民活動団体があって、どういった活動をしているか知らないと思う。市では環境課の安曇野環境市民ネットワークや教育委員会のコミュニティスクールなどあるが、なかなか知られていない。まずは市としてまとめて、困っているときはそこへ相談してください、という体制が必要。そうなれば区の負担も減らすことができると思う。今回、具体的な活動を見ないと、どこにお願いしていいか分からないと思った。区長会などでどういったことができたか事例紹介をする場があれば、つながりやすいと思う。お手伝いできる市民活動団体はたくさんあるが、うまくマッチングできていない。市の縦割りをこえて、区に対してPRする仕組み、市民活動団体もサポートする仕組みがあれば良いと思う。

事務局 福祉員の役割を福祉員自身が理解するにはどうしたらいいか。

委員 区の常会長会などのいろいろな集まりにお邪魔して、福祉員は負担があるものでなくて、隣組長の活動の中で、少し意識してもらうことと説明している。説明する前は、負担感を感じている人が多いが、直接伺って説明するとほとんどの方が理解していただき、やっていただける。

委員 福祉員に関しては、5地域の支部長に何回でも機会があればお話ししていただくようお願いしているが、なかなか徹底されていない。具体的にどうしたら理解してもらえるのが課題。隣組長、評議員を集めて行っているが、時間的な制約もあるので、何

回でも説明していただくようお願いしている。

委員 私も各区で悩んでいることは地区の住民の繋げ方であると思う。先ほどの中萱の事例のようにNPOの協力といった事例を紹介できたらと思う。団体はたくさんあるが、市民活動サポートセンターの情報がつながっていないと思う。つなげる材料を簡単に区の役員が手に入るようになれば、強力な財産になると思う。

委員 事業所も区で活動しているので、防災の関係でいえば、顔が見えている方同士のつながりが絶対に必要になる。小さな事業所は周りの方と同じように避難しなければいけない。その際によかったと思える関係性を普段からつくっていく必要がある。防災訓練に参加し、事務所で役に立てることをやっていくことが必要となる。区という単位こそが住民との理解の橋渡しになると強く感じている

委員 いろいろ出る話には仕掛ける人が必要。仕掛ける人がたくさんいることが、区の活性化に必要な。自分ができることを広げていく気持ちで取り組むことが大事であると思う。先ほどの中萱区の話のように仕掛ける人材を育成していく必要があるが、区だけで行っていくことは困難であるが、色々な分野で行っていかないといけないと思った。災害があったときなどは、そういった人材が必要になる。

委員 区長として自分の区の恥はさらしたくないという気持ちがあり、正直に他の区に対して事例をオープンにすることに消極的な部分がある。各地域には特色やしがらみもある。豊科のことを穂高が聞いても、ということもある。各地域区長会でいかに充実したコミュニケーションをとれるかが大事。中萱の事例もその地域区長会のなかで発表したりする環境が作りあげられるかどうか。各地域における横の連携をとり、包み隠さずに話し合える環境を作る努力が必要。仕掛けする人材の話があったが、市区長会、地域区長会などが仕掛けていかなければ進まないと思う。穂高地域では、地域区長会の下に地区区長会がある。さらに細分化して似たような区同士でのコミュニケーションを図る活動をしていく必要がある。各区長にはより自分の近いところで活動に汗をかいていただき、そういった場で生まれたことを上部組織にあげていくことが大事。地域区長会や市区長会の事務局が支援してもらえればと思う。

委員 区という単位を盛り上げていくには、いろいろな機関、事業所などが、お互い意識してつながっていくことが大事。市民の皆様の安心・安全の暮らしにつながっていくには、縦割りをいかになくしていくかが大切と改めて感じた。

事務局 引継ぎがうまくいかない、4月当初に説明会がないというご意見に対して、策を記入したがいかがか。

委員 前区長から引継ぎは受けなかった。区長をやる人のモチベーションでかなり差がでてしまうので引継ぎはとても大事。私もこれで任期をおえるが引継ぎをしっかりとやりたいとおもう。

事務局 民生児童委員についてはいかがか。

委員 さきほどのとおりで問題ない。

事務局 社会福祉協議会についていかがか。

委員 市社協でいうとまずは「地区社協活動の支援」。地区社協は区と連携しており、区の意義に大きく関係する。次に「人材の発掘、育成」。区の中で率先して動いてくれる仕掛け役を発掘、育成していく人づくりとしての役割がある。次に「福祉員の普及・啓発」。小さな単位でアンテナをはって地域をみていただくよう働きかけていく。次に「災害時支え合いマップの作成、活用の推進」。防災を通じた日頃の助け合いへの働き掛けをしていく役割。次に「福祉学習」。大人も子供も地域づくりを一緒に学ぶ・体験することに社協としても力をいれているし、区にとっても意味がある活動だと思う。

委員 本所と各支所での違いはあるが、各支部の社協をいかに活性化していくか。みんなが集まる場を作る、健康体操などを企画する、カラオケルームをつくるといったことを積極的にやっていくことになると思う。住民がいろいろなところへ参加しやすい雰囲気を作ることが社協としての役割となる。また、民生児童委員と地区社協の役員の連携を密にしていくことが大事。

委員 市社協は非営利団体の民間の法人。支部社協、地区社協は住民の住民による住民の福祉のための自主組織になる。そこが両輪となって、専門的に支援していくことが、市社協の役割となる。第3期の地域福祉計画、地域福祉活動計画の基本目標である「仕組みづくり」、「顔の見える環境づくり」、「人づくり」の3つに集約される。

事務局 地区社会福祉協議会についてはいかがか。

委員 84地区社協があるが、区の事業と連携しながら、住民同士の交流を大きな柱とした事業を行っている。地区社協では、区の加入未加入は関係ない。

委員 いきいきサロンなど地区単位で計画されていると思うが、私たちもマレットゴルフ、鍋会、ぶどう狩りなど地区社協の単位の中でいろいろ企画している。なかなか区に入っていない方には宣伝できていない。

委員 ボランティア団体、地区社協などいろいろな団体がある、区として行うこともあると思うが、団体を巻き込んで行ってもらいたい。

委員 地区社協の役員をやっているが、3世代交流ということで、育成会と共同で餅つき、三九郎などを行っている。区内でも連携も非常に有効。これからも育成会、公民館と横のつながりをもっていきたい。

事務局 子ども会・育成会についてはいかがか。

委員 育成会単体で動くことはあまりない。学校と保護者と地区の公民館と連動している。PTAではイベントが多く、年末年始が一番忙しい。育成会としては、親がリードするのではなく、子どもたちに自分たちでやらせる。毎年PTAの役員は1年で代わるが、引継ぎができておらず負担に感じている。

事務局 宅地建物取引業協会についてはいかがか。

委員 基本的にはこの3つで問題ない。良いところを伝えるとあるが、良いところばかり伝えるのではなく、負担になるところも含めて伝える必要がある。不動産の契約の際には文言として区の加入を勧めている。また分譲するとき区に加入することを前提とする物件については、加入していただくという内容で進めている。3つのうち下2つに関しては、口頭で説明をする。加入の勧めは一般的なことで説明し、情報が違うと入居した後で問題となる恐れがあるので、それ以上のことはデータがないため説明しない。データがあれば、データに基づいて説明できるので、そういったデータがあるとよい。宅建安曇野支部には28業者があるが、そのほとんどが区に加入しているため、おおよそ基本的なことは分かっている。それに加えて地域の特徴をお知らせできればと思う。

委員 松本の宅建へは、区の加入の情報はいかないのか。

事務局 以前、松本の宅建に話にいったが、難しいとの回答があった。

委員 区への加入や区長へのあいさつをお願いするとあるが、区長へのあいさつは必要ないと思う。区長には情報をいれて、区長ではなく代議員などが伺う。

委員 最終的に区長になると思うが、私の場合は、まずは隣組長にあいさつにいて、今後どういった対応するべきか確認してもらおうようお願いしている。

委員 市の窓口では、区長の名前と連絡先を伝え、転居したらご連絡をしていただくよう説明している。柏原では転入者からの連絡を受け、区長が直接伺う。その時には地区長や班長と一緒にいくかたちになっている。

委員 この初めて伺って加入をお願いするときのスキルが重要。その辺のスキルアップを考えていかななくてはならない。ここでこじれたり手順を間違えると区へ加入してもらえなくなる。

委員 だからこそ理解と知識のある区長が受ける必要がある。班長になると経験が不足している場合があるので、そういった面でも区長が伺うのが良いと思う。

事務局 区の勧誘に行かれた人の言葉に怒って苦情を受けることもある。みんながみんな上手く勧誘できるかは難しいと思うため、市としてはまずは区長をご案内している。

委員 転居者へ説明するとき、一番トラブルになりやすいのが、区費のほかに公民館の積立金などの負担金が話にでてくる場合。諸々含めて全体でいくらかかるのか最初に説明することが大事。あとから話がでてくると不信になるということをよく聞く。

委員 家を建てる資金計画の段階で話ができればいいが、家が建って引っ越してから言われると困ってしまう。

委員 今までの案件の中で、区長に加入金や区費やそれ以外の費用を教えてほしいと言って断られたことはない。

委員 私の区は年間行事や費用が一覧になっている。小出しにされるのが一番困る。業者によっては中途半端な説明して責められてしまうのが嫌なので、加入しても加入しなくても良いと説明する場合もある。一定の情報を出すことで、説明してもらうようにしていくことも大事。

委員 県外での移住セミナーで説明する際、まずは区とは何か説明する必要がある。ここでは区へ加入するメリットは伝えるようにしている。また、防災時は自助共助が大切であり、小さい単位、組単位で支え合うことの重要性を伝えていきたい。区の文化の継承ということも区で行わなければならないため、各区には歴史と文化があることを説明するようにしている。

事務局 NPO法人・市民活動団体についていかがか。

委員 区民が市民活動団体を知らないという話をしたが、逆に市民活動団体も区のことをよく分かっていないから区と連携しにくいということもあると思う。お互いの情報を共有することが大事。市民活動団体としてサポートできる部分があるので、事例の紹介するなかで区の役員の負担の軽減をアピールできればと思う。

委員 地域での子育てについては発足当初から抱えている課題であるが、なかなか実現は難しい。最近では地区のシニアの人たちに毎月異世代交流にきてもらっている。区の人たちとの交流はそこから始まり、この交流をどのように続けて、地域（区）での子育てにつなげていくか検討しているところである。

事務局 地区公民館についていかがか。

委員 地区公民館について2つ考えたが、1つは目標の共有。目標や願いを地区公民館と区がいかにか共有できるか。2つ目は、野沢区の公民館報では最初のあいさつに代表区長、次に公民館長となっており、区の便りと公民館報がある意味で融合していて、この中にヒントがあると考えた。区と公民館の事業はリンクしている。それぞれが単独でやるのがナンセンスだと感じる。区と公民館でやっているところもあると思うが、コミュニティ・マニュアル（手順書）の中に多くのヒントがある。例えば「〇〇な地域をつくろう」と目標を掲げたとして、まずステップ1の「地域を知ろう」となるので、みんなで地域をまわることが浮かんでくる。ステップ2の「学びから、みんなでこれからの地域について考えよう。」では、公民館活動の中心である学びの場として出前講座や地域人材を活用した講座などを区と地域公民館で一緒に行く。そしてステップ3の「一人ひとりの主体的な参画を促す仕組みをつくろう」になるが、先ほどの公民館報にヒントがある。ここには区の役員と公民館の役員が一枚の中に見える。これは公民館の行事が掲載されているが、ここに区の情報も併記できると区の景色が見える。また協働事業の感想を中心に書いて流していけばいいと思った。広報担当は区からも公民館からも出して一緒にやればいいと思う。

委員 堀金の下堀区では部制度を導入した。以前は公民館は独立しており、区から助成金をもらって活動していたが、公民館部をつくり、区の中に入って区の予算で活動していく形態に切り替えた。区と公民館が一体的となるとすれば、上手く部制度を使ってひとつの区の活動として進めていけばいいのではないか。

事務局 三郷公民館と三郷地域の各地区公民館との繋がりのありかたについていかがか。

委員 一番大切に考えていることは三郷地域の共同体をいかに発展させていくか。お互い無くてはならない同じ立場であると考えている。地区公民館では役員選出など苦労し

ている。その際に三郷公民館として与えられる人材や行事の情報をもって、困っている地区公民館と相談していくことや、イベントを三郷公民館だけでやっていくのではなくて、地区公民館に出向いて開催するなど、連携を図っていきたい。

委員 自分の区の公民館長はとても前向きな方で、自分でイベントを発案して開催してくれている。例えば人形劇をやった際は参加者の感想を全世帯に報告がある。子ども会を巻き込んで夏祭りも独自でやっている。総会的时候は一升瓶を転入者がもってきて、自己紹介してもらった伝統がある。区に入らないというイメージがない。住みやすい地区である。

委員 公民館で役員をやっているが、女性部でクラフト系の講座をやっている。たまたま私の市民活動団体でクラフト作家のグループをつくっているの、リース作りやクリスマスのアレンジ、木のおもちゃ作りなどに外部から講師を呼ぶことができる。イベントを企画する際に市民活動団体を活用してもらえれば、面白いものができる。

事務局 本日欠席の猿田委員より事前に以下の意見をいただいた。次回これらを含めて報告したいと思う。

- ・防災訓練などに協力して意識の高揚とともに AED の使用を含めた技術を身につけ、思いやりをもって地域づくりを共に進めたい。
- ・日頃から消防団員として地域の行事に関わり、住民として・消防団員として地域の安全安心に心を配りたい。
- ・団長指揮のもと、ポンプ操法への理解を含め、有事の際に対応できる訓練を重ね、消防団員として責任ある行動を目指す。

委員 本日、みなさんより、たくさんのヒントをいただきました。公民館とか社協など、同じ方向を向いているはずなのに、どうして今まで手をつないでいなかったのか、これが率直な感想。ぜひ、このワーキンググループから連携して安心・安全な暮らしを目指していければと思う。

その他

次回会議予定：1月中